大学院

担当　風みどり

◇解答者総数　28名
◇全題正解者　16名

誤無ＡＢＣ平均

⑨井上徹也　7 5 13 2 0 2. 86
⑩深和敬斗　8 2 16 1 0 2. 94

◇院9　入選22回

長野県　井上徹也

「特異点」

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								と	一
							銀	と	二
				銀	桂	歩	銀	金	三
	と			と	香		歩		四
		と	と			歩		王	五
香	歩	歩	歩	歩		角		桂	六
飛				歩					七
			金	銀	飛				八
と			金		桂	王	歩		九

持駒　角歩2

37角、16玉、27角、同玉、28飛、16玉、26飛、17玉、18歩、同玉、28飛㋑17玉、18歩、16玉、26飛、15玉、46飛、〔㋺26桂合、同角、25玉、17桂、16玉、37角、27玉、26飛、18玉、28飛㋩19玉、Ⓐ48飛、28角合、同角、18玉、37角㋥27玉Ⓑ45角㋭36桂合、Ⓒ同角、同玉、46飛、27玉、19桂、18玉、48飛、38角合、同飛、17玉、18歩、16玉、27角、25玉、36角㋛35玉、27桂、36玉、48角〕＝**甲**、〔27玉、28飛、16玉、26飛、15玉〕＝**乙**、66飛、**甲**、**乙**、76飛、**甲**、**乙**、86飛、**甲**、㋣45玉Ⓧ44と、56玉、66と、同玉、57角、同飛成、同金、75玉、85飛、76玉、77歩、同玉、68金、同玉、58飛、79玉、88銀、89玉、59飛、78玉、79飛、68玉、65飛迄211手。

㋑19玉は24飛、18玉、14飛、同と、28金、19玉、17金迄。

㋺26香合は同角、25玉、37桂、16玉、35角、36桂合、同飛、27玉、26飛以下。

㋩17玉は作意に短絡。

Ⓐ24飛は28歩合で打歩詰。

Ⓐ58飛は28香合で逃れ。

㋥17玉は18歩、16玉、46飛、36桂合、同飛、27玉、26飛、18玉、16飛、17金合、同飛、同玉、28金以下。

Ⓑ28飛は16玉、26飛、17玉、18歩、同玉、16飛、17金合、同飛、同玉以下不詰。

㋭36香合は28飛、17玉、18歩、16玉、26飛以下。

Ⓒ28飛は16玉、26飛、17玉、18歩、同玉、36角、27桂合、同角、17玉で不詰。

㋛同玉は48角、45玉、44と、56玉、66と以下。

㋣27玉は28飛、36玉、26飛、45玉、57桂、同飛成、46歩、同龍、同飛以下。

Ⓧ44銀成も可。また34銀の迂回手順も成立。

☆初形から六段の歩を消去して96にある宝物を得る狙いが見える。

☆歩を剥がす為には37角26飛15玉の形にする必要がある。そこで26飛には17玉と逃げる。18歩、同玉、28飛に19玉は24飛から14金を喰って詰む。よって17玉。18歩とおさえて再度26飛なら15玉の一手。目的達成だ。

☆努々安心召されるな、本作はここからがメインなのだ。まずは、46飛に桂合。

☆同角、25玉に17桂から角をまた開き、18玉に28飛。こ

途中図1

4	3	2	1	
				一
				二
桂	歩	銀	と	三
香	歩	銀	と	四
		歩	金	五
			王	六
飛		桂		七
	角			八
			歩	九
桂	王	歩		

持駒　歩

を開いてまた合駒だ。

途中図3

4	3	2	1	
				一
桂	歩	銀	と	二
香	歩	銀	と	三
		歩	金	四
角				五
	桂			六
	角	王	桂	七
飛				八
桂	王	歩		九

持駒　歩

☆27玉に対し角で追わず、角を桂馬に換えその桂を19に使って玉を動かす。巧妙な手段だ。持駒に歩がもう一つあれば45角でなく28飛で簡単。実に精妙な造りだ。変化㈡と紛れⒷの微妙な差異も鑑賞して頂きたい。

永島勝利―もう1歩あれば簡単に進行するが、そこが手順の妙でどう補うか。

途中図4

4	3	2	1	
				一
桂	歩	銀	と	二
香	歩	銀	と	三
		歩	金	四
				五
				六
	角		桂	七
飛		角	王	八
桂	王	歩	桂	九

持駒　歩

☆絶体絶命と見える形だがここで炸裂する妙防38角。この手を見落とすとやはり㈧19玉は変化だと誤解に陥る仕組みなのだ。いやまだ安心できぬ。この形から26飛15玉の形に還るのか、飯尾晃―複雑な仕組みの中、38角が破調で後が続くのか心配になる。

竹中健一―1サイクルが面白い構成ですね！　38角はすごい応手でした～。

☆これが見事に還元するから驚きだ。変化㈥で飛車が33に届いているのを見て上辺の配置に納得する。44銀成の変化はあっても44銀生と攻めると45玉で手も足も出ない配置の心憎さよ。

流―狭い範囲で合駒4回の抵抗。しかもちゃんと原型をとどめて戻ってくる。これを作るのはやはり読みの力のある作者ならでは。

☆収束は香を取られては一溜りもないので玉が逃げ方を変える。舞台装置を自然に捌いた仕上げだ。

☆連取りや馬鋸は今やそれ自体の面白さで見せるのではなく、一連の面白い手順を繰り返すエンジンとしての役割を担う要素になっている。その「一連の面白い手順」を極めてみようという野心の結実が本作だ。

☆狭い所で合駒4回を含む44手もの攻防。それをまるごと繰り返す。

池田俊哉―1サイクル40手超の手順を見つけただけで作者の勝ち。

須川卓二―趣向手順中に桂の

途中図2

4	3	2	1	
				一
				二
桂	歩	銀	と	三
香	歩	銀	と	四
		歩	金	五
				六
				七
	角		桂	八
飛		角		九
桂	王	歩	王	

持駒　歩

☆今度は角合。角で取り、角

捨合や角の捨合、角の中合、桂合が散りばめられる内容には開いた口が塞がらない。小林徹―歩を消費しながら特異点は何処かと探す。

名越健将―なるほど、19が特異点という訳ですね。

☆筆者には玉飛角が激しく飛び回る素粒子に見えた。

◇院10　入選20回

あま市　深和敬斗

「浪漫飛行」

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	銀	銀	と	と	と	香		桂		一
二	と	香	と	と	と		歩		金	二
三				と	龍					三
四			香	桂	歩	龍	歩			四
五		金	桂	歩	銀	歩		金		五
六				桂				金		六
七					馬				玉	七
八	歩			銀	角	歩		と	歩	八
九		王								九

持駒　なし

27金、同玉、36馬、同玉、35龍、47玉、37龍、58玉、48龍、67玉、68龍、76玉、86金、同玉、88龍、76玉、86龍、67玉、77龍、58玉、68龍、47玉、48龍、36玉、26金、同玉、28龍、35玉、26龍、34玉、23龍、35玉、36歩、同玉、

〔26龍、47玉、37龍、58玉、48龍、67玉、68龍、76玉、77龍、85玉、86龍、94玉、95龍、83玉、92龍、84玉〕＝**甲**、

〔85歩、同玉、95龍、76玉、86龍、67玉、77龍、58玉、68龍、47玉、48龍、36玉、38龍〕＝**乙**、

〔37角合、同龍、25玉、26龍、34玉、23龍、35玉、17角、36玉〕＝**丙**、

甲、62角成㋑同と左上、**乙**、**丙**、**甲**、62角成、同と左、**乙**、**丙**、**甲**、62角成、同と直、**乙**、**丙**、**甲**、62角成、同と引、**乙**、**丙**、**甲**、62角成、同と寄、**乙**、**丙**、**甲**、62角成、同と、**乙**、㋺83玉は84歩、同玉、95角以下早い。

丙、**甲**、62角成、同龍、**乙**、Ⓐ85龍は84香合で不詰。

☆左右対称の金捨による折り返しが序奏。次に狙うのは29とだ。これを剥がせば左に追う過程で18龍と歩が入手できる。歩を手持ちにして左辺に追う事が出来ると95龍でなく96龍と控えて追う事で84歩～95角で詰ます事が出来る。玉方も95桂合で抵抗するが、その桂馬で96桂と追い出されると84への利きが残るのでもう1周して終了というわけだ。

☆これで127手詰。この順の誤解者が8名。「こんなに単純でいいのか」と首を傾げつつの答案提出に違いない。

龍～33角成で早い。51とが消えた後の応手は非限定。

25玉、29龍、34玉、23龍、35玉、36歩、同玉、26龍、47玉、27龍、58玉、18龍、47玉、27龍、58玉、38龍、57玉、48龍、67玉、68龍、76玉、77龍、85玉、86龍、94玉、96龍㋺95桂合、同龍、83玉Ⓐ92龍、84玉、96桂、85玉、95龍、76玉、86龍、67玉、77龍、58玉、68龍、47玉、48龍、36玉、37龍、25玉、26龍、34玉、23龍、35玉、36歩、同玉、26龍、47玉、37龍、58玉、48龍、67玉、68龍、76玉、77龍、85玉、86龍、94玉、84龍迄407手。

㋑同と左寄は34玉に16角～23

誤解するのも無理はない。玉方には驚異的な延命手段があったのだ。

途中図（37角合）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					香		歩	桂	一
	香		と	と		と			二
			と	と		と		金	三
		香	龍						四
		桂	歩		歩				五
			桂	歩		王			六
				桂				角	七
			銀	角	歩		と	歩	八
歩	王		銀						九
成銀	成銀	と	と	と	と				

持駒　なし

☆龍追いで角の捨合なんて見た事ない。この無防備に近い局面で角を持たされたら簡単に詰みそうだ。

☆ところがこの角は17角と右辺の折り返しに使うしか無く、左辺の折り返しにまた1歩必要だから62のと金と交換するしかない。ちゃんと帳尻が合うのだ。

須川卓二―どうしても早く詰んでしまうと散々考えたら37角合という延命があった。角をもらっても歩と交換する順しか手が続かないとは……。

和田登―29龍を防ぐ37角合がドラマの始まり。

名越健将―17角～62角成の7回の飛行はロマンを感じる。

☆7枚のと金を取り払えば玉方も同龍しかなく、飛車を喰われては早いので37角の延命手段も効かなくなり、先に読んだ収束に至る。

永島勝利―37角合の妙防でと金はがしとはダイナミックな構想！

加藤清隆―37角中合が壮大な延命策。とにかくスケールの大きさを実感した。

☆若者らしい盤面を大きく使った表現が好感を呼び好評を集めた。

作者―2009年8月の橋本孝治氏の論考で「龍以外の駒でと金を剥がす龍追い」の希少性を知り自分も作りたくなりました。

☆その駒を角にしたのが大胆で素晴らしい所だ。先行作は糟谷祐介「カミトチル」（パラ2006年3月）357手。本作は角を捨合で入手する点と400手超えがウリだ。

竹中健一―62の取り方は最初だけ注意ですね。

☆51が空くまでは52とが必要。

野口賢治―角による剥がしの応手は非限定なれど、この趣向ではつきものなので気にならない。壮大なストーリーを描ききった若手のエースに惜しみない拍手を。流―角を遠くから飛ばす快感。最後に桂を拾われて使われるのもにやり。よくできているなぁと感心します。

☆単純な構造なのだが、基本設計がしっかりしている。だからこそ、今後への期待がいやが上にも高まるのだ。

加賀孝志―次回の長篇作が楽しみです。

作者―今年は大学受験に専念します。よって本作を最後の投稿にします。

☆復活を鶴首して待とう。

【全題正解者】

飯尾　晃　池田俊哉　今川健一　加賀孝志　神谷　薫　日下通博　小林　徹　斎藤博久　須川卓二　竹中健一　永島勝利　流　野口賢治　福村　努　吉田清二　和田　登

【当選者】 誌代1ヵ月分入帖